『花を訪ねて: 花菖蒲』

水元公園散策報告(2022 年 6 月 5 日(日))

「花菖蒲を見に水元公園へ行こう」とご提案して実現した。このところ天候は不順で安定していないが、池に咲く花を観賞するので、「雨でも実施します！」と宣言していた。女性陣にも大勢ご参加いただいき、伊藤、荻野、神田、柳沢、それと柳沢さんの友人の宮内さん、陽田の６名で出掛けた。

9 時半に JR 金町駅改札口前に集合したが、この頃には天候も段々良くなってきて、日差しも出て青空も見えてきた。正に「晴れ女」様々だ。小さなバスに満員乗車して出発、やがて水元公園の土手沿いの細い道を走る、左側には車が止まっていたりで大型バスは無理、マイクロバスを使うのに納得。

10 時少し前に「水元公園」の花菖蒲園の前に到着、満員の全員が下車した。目の前に花菖蒲の池が広がっている。仮設テントでは撮影会の参加受付けをしていた。周りには大型レンズを付けたカメラを持った人がうろうろしている。花菖蒲の紫、青、ピンク、白、黄色などの花々は丁度見頃、ほとんど満開で一部は終りかけていた。「菖蒲祭り」は 19 日迄だが、それまでは持たないだろうなと余計な心配をしてしまった。花菖蒲池はあちこちに点在し、開放的な空間なので気持ちが良い。また「睡蓮の池」もあり、白い花を咲かせていた。

水辺の方に行ってみる、水元公園は細長い形で、この園地に沿った水辺は「小合溜」と云う“水溜り”だ、どうも大きな川からの流入水はないようだが、水は割合きれいだった。ぶらぶらと「水元大橋」を渡って林の方へ、いささか暑くなってきたので、メタセコイア、楠の木立の下のベンチで一息入れる。メタセコイアは杉科の落葉樹だが、今は新緑できれい、葉はねむの木に似ている。

中央広場では「葛飾菖蒲まつり」のために特設ひな壇が作られて、区長、衆・参議院議員さん、町の有力者たちの挨拶が行われていた。同時に楽団演奏、ヴォーカルなどの余興も行われている模様。

11 時頃、公園の正面から外へ出て、“内溜”沿いにバス停まで歩いた。11 時 40 分から金町駅前の「サイゼリア」で昼食兼反省会。ビール、ワイン、それぞれ好みの飲み物で乾杯！幹事としては「晴れ女の皆さんに感謝」と謝意を述べた。雨でもいいと言ってはみたが、やはり晴れている方が良い。夏の暑い時期は「街歩き」に向かないので、秋になったらまた種々「街歩き」をご提案したいと勧誘した。

神田さんから「帝釈天まですぐなので、これから行ってみませんか」とのご提案があったので、早速「アディショナルツアー」として行くことにした。確かに京成金町から一駅で柴又駅だ。駅前に立つ寅さんとさくらの像に挨拶して、帝釈天の参道を進む。川魚料理で有名な「川千屋（カワチヤ)」が店仕舞いしたらしい」とか話しがあったが、「川千屋」はちゃんと営業していたのでホットした。“店仕舞い”はガサネタだったのか。

「帝釈天」（題経寺）は堂々とした堂宇である。早速本堂裏側にある「内堂」の壁面を飾る「彫刻ギャラリー」へ向かう。大正から昭和の初期にかけての 10 人の彫刻家の透かし彫りの傑作であって、なかなか見応えのある作品であった。“国重文”などに指定されていないのが不思議なくらい。その後、池の周りの周回廊下から庭園を観賞してから、帝釈天を後にした。

14 時 20 分、柴又駅へ戻り、それぞれの方向へ流れ解散した。なお、帝釈天、寅さん記念館、矢切の渡しなどをセットにした「葛飾柴又散策」として、改めてご案内したいと考えています。

以上　　陽田

『閑話休題』　「いずれがアヤメかカキツバタ」

花菖蒲:「アヤメ科」

生育地:水中又は湿地

花:紫、青、白、ピンク、黄色など多彩。花弁の付け根に黄色の筋がある。

背丈:80～100cm

葉:中央に葉脈が見える。

カキツバタ:「アヤメ科」（杜若）

生育地:湿地を好む。

花:濃紫色で外側花弁の中心に白の細い筋が入る。

背丈:50～70cm

葉:葉脈は見えにくい。

アヤメ:「アヤメ科」（文目）

生育地:乾燥地

花:紫色、まれに白色。外側花弁の中心に網目状模様が入る。

背丈:40～50cm

葉:葉脈はない。

菖蒲:「菖蒲科」（尚武）

生育地:乾燥地

花:小さく見栄えしない。

「端午の節句」に菖蒲湯などに用いられる。

葉:爽やかな香気をはなつ。